

# 可搬式画像伝送装置 取扱説明書

型式 HCV-590-P

株式会社 アイテックス

## 可搬式画像伝送装置 MODEL HCV-590-P 取扱説明書

**特 徴** 背負い型のハードケースに運用に必要なものすべてを収納し、非常時でも素早く持ち出して運用できる画像伝送装置です。

電源は乾電池のほかに車輛電源、AC電源を使用できる3way電源方式により長時間の運用が可能で、電池はどこでも調達が容易な単1型乾電池を使用しています。

FOMA回線を使用しており、FOMA携帯電話のサービスエリア内であれば撮影した画像をリアルタイムで何時でもどこへでも伝送でき、誰でも簡単に操作できるシステムです。

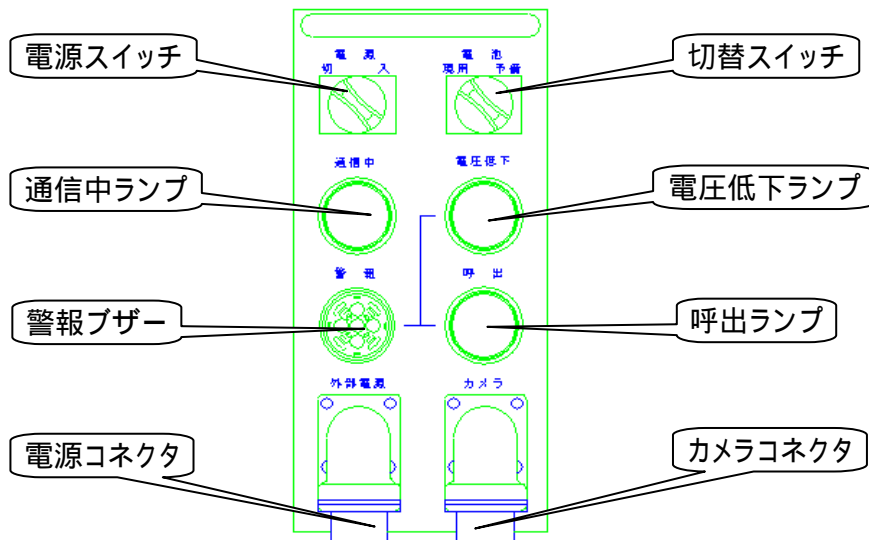
インカム機能により受信者からの指示を撮影者に同時通話で伝達できる機能を有し、スムーズな運用が行なえ、携帯電話など通話用に別回線を必要としません。

付属品	ビデオカメラ	1台	FOMAカード(内蔵)	1台
	ヘッドセット	1台	テスト用乾電池	単1型8本
	カメラケーブル	1本	取扱説明書	1式
	DC電源ケーブル	1本	試験成績書	1式
	AC電源ケーブル	1本		

オプション 画像モニターソフト

画像変換ソフト

### 操作パネル



## 運用準備

### 電池による運用

ハードケースを開くと下図のように電池ボックスが見え、パチン錠を2箇所はずしてアクリルの蓋を開き、単1型の電池を使用して下段の8本が現用電池で、上段の8本が予備電池となっています。

『現用』、『予備』のどちら一方に単1型電池を8本入れただけでも運用は可能ですが、非常時を考慮して双方に入れておいてください。

電池は『現用』、『予備』の8本は同種類のものを使用し、『現用』、『予備』間では別種類でも問題ありません。

乾電池を収納した状態で保管しても、内部ではスイッチにより機械的に完全に切り離しているためにほとんど自己放電はありません。



### 車輻電源による運用

下図のようなDC電源ケーブルがハードケース内に収納されており、これを取り出して操作パネル左下の『外部電源』レセプタクルの防水キャップをはずしてプラグを差し込み、リングナットを締めて抜けないように固定します。ケーブル先端のシガープラグは車輻のライターソケットに差し込みますが、**本機はDC12V専用のためDC24Vを使用した大型車などでは使うことが出来ず、差し込むと故障の原因となるので注意してください。**

DC24Vで運用する場合はDC24V DC12Vコンバータを使うか、DC24V AC100Vインバータを使用してAC100Vケーブルを使用します。



### AC100V電源による運用

下図のようなAC電源ケーブルがハードケース内に収納されており、これを取り出して操作パネルの左下の『外部電源』レセプタクルの防水キャップをはずしてプラグを差し込み、リングナットを締めて抜けないように固定します。ケーブル反対側のACプラグは電源コンセントにむ差し込みます。



## 注意

車輛より電源を供給して運用する場合は車輛のバッテリー上がりに十分注意して運用してください。

『外部電源』コネクタは1つでAC、DC兼用になっており、接続する電源ケーブルにより自動的に切り替わります。

各電源は自動的に切り替わりますが、運用中にコネクタを抜き差しして切替えると一旦接続が切れ、再度自動接続するまでの間通信が出来なくなります。

乾電池による運用時の『現用』『予備』切替は通信を切断することなく行なえます。

## カメラの取り出し、ケーブルの接続

ハードケース内部に収納されているビデオカメラを取り出し、ビデオカメラに接続されているケーブルのコネクタを操作パネル右下の『カメラ』レセプタクルの防水キャップをはずして取り付けます。



カメラの電池パック部より出ている下図のような2本のプラグケーブルをそれぞれAVジャックとDCジャックに接続します。



## ヘッドセットの取り付け

ハードケース内に収納されているヘッドセットを取り出し、ビデオカメラのケーブル接続ボックスにあるイヤホンジャックにヘッドセットのプラグを差し込みます。



## 受信側準備

受信用パソコンを開いてヘッドセットのプラグををパソコンのそれぞれのジャックに差し込み、RV4Scopeを実行し、このまま待機してカメラ側と接続されると画面にカメラ映像が映り、ヘッドセットで撮影者と通話できます。

詳細は付属のソフト取扱説明書をご覧ください。

## 画像の送信操作

### 電源スイッチ

運用準備がすべて終了したら操作パネルの『電源』スイッチを『入』にして電源を入れます。

ランプ、ブザーチェックを自動的に行い、青色の『通信中』ランプが点滅します。

『通信中』青色表示灯が点滅して接続動作中であることを示し、受信側のパソコンと接続されるとブザーがピピッと鳴り、『通信中』青色表示灯が点滅から点灯に切り替わり、これでビデオカメラのモニタに映っている画像が受信用パソコンに送信されます。

### ビデオカメラの操作

ビデオカメラの電源を入れて録画待機状態にし、カメラは録画状態でもカメラのモニタに画像が映っている状態であればその画像は送信されて受信側のパソコンで見ることができます。

運用中にビデオカメラの録画スイッチを押すと送信と同時にビデオカメラ本来の機能で内蔵のメモリーに録画され、この画像はビデオカメラのスペックに基づいて記録され、送信された画像よりはるかに高画質の映像として残ります。

画像は1秒間に1枚程度の分解写真のような状態で送信されるので、撮影する場合はかなりゆっくりとカメラの向きを変えたり、ズームしたほうが受信者側で見やすくなります。

ビデオカメラの操作方法についてはビデオカメラの取扱説明書に従って操作してください。

### ヘッドセットの操作

受信側パソコンと通信状態が確立されるとヘッドセットによる同時通話が可能となり、マイクに向かって話すとレシーバーから相手の返事が聞こえます。

音声の通信にも相互にパケット通信を行なっているために若干の遅延が発生するのでその事を考慮して慌てないで通話してください。

### 呼び出し

受信パソコン側の画面で『呼び出し』ボタンをクリックすると橙色の『呼出』表示灯が点滅してブザーが鳴り、呼び出されたことがわかります。

これは撮影者がヘッドセットをはずした状態で待機しているときなどに受信者側より送信者側を呼び出す時に使用します。

## 電圧低下アラーム

運用時に電源電圧が低下して内部において電圧が10V以下になった場合に『電圧低下』赤色警告灯とブザーにより知らせます。  
この警告は電圧が復帰するまで警告灯は点滅を続け、ブザーは一定間隔で鳴り続けます。

## 電池による運用時

『現用』側に切替えて運用時に電圧低下が発生した場合は『予備』側に切替え、予備側に新しい電池が装着されていれば警告は停止し、通常の運用が行なえます。

## 車輻電源による運用時

この状態で電圧低下アラームが鳴った場合は車輻からの供給電圧が低下したため、エンジンを切った状態で長時間の運用を行なった事によりバッテリー上がりを起こしています。  
運用を続けるにはエンジンをかける必要がありますが、電圧がここまで低下した状態では他の車輻よりブースターケーブル等で電源の供給を受けないとエンジンの始動は難しいと思います。

## AC電源による運用時

通常はAC電源より電源を供給しての運用時であれば内部の電圧が12V以下になることは無く、まれに災害時などでAC電源の電圧が85V以下となった場合には内部電圧が低下して電圧低下アラームが鳴る事が有ります。

## 運用停止

電源スイッチを切るだけで運用は停止されます。  
次回の運用時に困らないように付属品は元の場所へ収納し、電池も使用時間に応じて交換して置く必要があります。